

スポーツツーリズム・ムーブメント創出事業
 (スポーツ文化ツーリズム創造・発信事業)
 事業報告

受託者：株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ

1. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

平成30年11月9日～平成31年3月8日

実施時期	事業項目			
	(1)企画会議	(2)シンポジウム、表彰式、ワークショップ企画運営	(3)モデル事例調査、受賞事例多言語化	(4)報告書作成
11月	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ庁、文化庁及び観光庁（以下「3庁」という。）担当者との企画会議 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式、シンポジウム及びワークショップ企画詳細の原案作成 シンポジウム登壇有識者選定、交渉 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> 3庁担当者との企画会議 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式、シンポジウム及びワークショップ企画詳細の検討 アワード受賞団体との調整 シンポジウム基調講演登壇者選定、交渉 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> 3庁担当者との企画会議 	<ul style="list-style-type: none"> 表彰式、シンポジウム及びワークショップ企画運営計画の作成 シンポジウム及びワークショップ登壇有識者との企画内容打合せ アワード受賞団体との表彰式、プレゼンテーション等調整打合せ 広報PR計画策定、シンポジウム取材案内作成&配信 広報物(チラシ、映像)の作成 シンポジウム当日のメディア取材誘致 1月24日(木)「表彰式」「シンポジウム」「ワークショップ」の実施運営 メディア向け事後掲載リリースの作成配信及び掲載モニタリング 		
2月		<ul style="list-style-type: none"> 受賞団体向け認定証の作成 メディア掲載露出モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事例となるアワード受賞団体事業の調査設計及び実査 	

			・受賞団体事例の2カ国語翻訳(英語、中国語)	
3月				<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムの実施報告書及びメディア掲載報告書作成 ・アワード受賞団体事業の調査報告書作成

(2) 事業の実績の説明

※事業内容を具体的に説明

① 事業内容

3庁の政策連携による相乗効果によって新たに生まれる地域ブランドを確立・発信し、訪日観光客の増加や国内観光活性化を図るためことを目的として、2020年までに訪日外国人4,000万人という目標値に寄与するような魅力あるコンテンツを生み出す「スポーツ文化ツーリズム」の定着を図るべく、その意義を広く発信するためのシンポジウムを開催及び「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」選定事例を発信するとともに、受賞事例を多言語化してWEBサイト等で国内外に発信する。

- スポーツ文化ツーリズム及び観光振興等に取り組むステークホルダー関係者のモチベーションや事業の魅力向上のための情報収集、交流を目的した「第3回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」を開催
- 「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」選定事例の表彰及びシンポジウムにおける表彰式を実施
- 本年アワードに選定された5つの国内事例について、全国の自治体やNPO及び事業者等、同様の事業を展開する際の参考となる情報を収集し、報告書を作成
- アワード選定の5事例及びスポーツ庁WEBサイトの事例掲載用ページを多言語化(2カ国語/英語、中国語(簡体字))し、WEBサイト等で国内外に発信

②事業の実施方法等

- 「第3回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」
 - ・訪日観光客の需要が今後増大することを鑑み、インバウンドの現状分析と今後の戦略、そして具体取り組みをスポーツ、文化、観光の面から総合的に示唆できるようなシンポジウムにするため、プログラム構成や基調講演者の選定など、3庁の担当者を交えて企画会議を数回開催
 - ・シンポジウムの企画開発及び基調講演者等の有識者との調整においては(一社)日本スポーツツーリズム推進機構との協働により推進
 - ・ツーリズムの魅力の発信等で相乗効果を図るため、2017年度と同様に日本空港ビルデング(株)の協力のもと、国内線第一旅客ターミナル内のギャラクシーホールを会場に選定
 - ・シンポジウム内で「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」選定事例5団体を表彰

※<マイスター部門> 3 団体

- ①団体名 一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟
企画名 国際スポーツ雪かき選手権
- ②団体名 NPO 法人きらり水源村
企画名 カヤックで農業用水路を下る！「イデベンチャー」
- ③団体名 一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン
企画名 地域の魅力・文化を引き出しサイクルツーリズムで通年誘客を実現する「ツール・ド・ニッポン」

※<チャレンジ部門> 2 団体

- ①団体名 一般社団法人山形バリアフリー観光ツアーセンター
企画名 「世界一自由な空へ つばさに乗って行こう 南陽は空もバリアフリー」
空飛ぶ車椅子体験
- ②団体名 株式会社サムライプロデュース
企画名 十勝ナイトリバークルージング

- ・表彰式終了後、2020 年までに訪日外国人 4,000 万人という目標値と 2019～2021 年のゴールデン・スポーツ・イヤーと言われる大規模国際スポーツイベント開催期を、インバウンドとスポーツ文化ツーリズムの相乗効果をより増大させる絶好の機会とするため、鈴木スポーツ庁長官、宮田文化庁長官、田端観光庁長官による<インバウンド活性化のために‘スポーツ文化ツーリズム’が担う役割>と題したトークセッションを実施
- ・今後増加が見込まれるインバウンド訪日客を国内のスポーツ文化ツーリズムにより誘致するため情報ノウハウ等を参加者に提供することを目的に、インバウンド有識者 3 名による基調講演を開催

①基調講演 1

講演者 トリップアドバイザー株式会社代表取締役
牧野友衛氏

タイトル 「トリップアドバイザーで見るインバウンドの現状と対策」

②基調講演 2

講演者 株式会社やまごころ代表取締役インバウンド戦略アドバイザー
村山慶輔氏

タイトル 「インバウンド最前線～やってはいけない 5 つの NG から地域におけるインバウンド戦略を学ぶ～」

③基調講演 3

講演者 有限会社山城屋代表 インバウンド推進協議会 OITA 会長
二宮謙児氏

タイトル 「2017 年外国人宿泊者数伸び率 No.1 大分県の取組」

- ・チャレンジ部門受賞団体の取組の現状の課題やインバウンド対策等、その魅力をさらにブラッシュアップし、今後ますます発展させるためのポイントをシンポジウム来場者と共に議論し、今後の取組実践に活用してもらうため、株式会社 JTB 総合研究所の山下真輝氏を講師に、チャレンジ部門で入賞した 2 団体を題材としたワークショップを実施

○シンポジウム当日の取材を誘致する案内資料を作成、在京テレビ新聞等はもちろん、受賞団体の地元メディアに対しても積極的な取材誘致を実施

○シンポジウム開催後も、開催概要をまとめた資料を作成しプレス各社に配信、記事掲載を促すアプローチを展開

○モデル事例の報告書作成

本年アワードに選定された5つの国内事例について、新たに全国の自治体やNPO等全国で同様の事業を展開される団体の参考となる情報を収集し、報告書を作成

○受賞事例を多言語化してWEBサイト等で国内外に発信

「スポーツ文化ツーリズム」を国内外へ発信するため、「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」で選定した事例及びスポーツ庁WEBサイトの事例掲載用頁を2ヶ国語に翻訳し国内外に発信（英語、中国語）

③事業の成果等

○「第3回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」

- ・シンポジウムの全体構成や基調講演者の選定など、3庁担当者や有識者団体と綿密な計画を練り上げ実行した結果、シンポジウムへの来場者が昨年と比べ増大

シンポジウム総来場者数：184名（2017年度実績 159名）

- ・中央メディア及びアワード受賞地域のローカルメディアへのアプローチとイベント当日の取材誘致活動。また事前事後での露出拡大への注力とSNSとも連携した情報拡散を推進した結果、表彰式、シンポジウムは、テレビ、新聞、雑誌、フリーペーパー、WEB等のメディアに取り上げられ、受賞団体及びスポーツ文化ツーリズムの情報発信と認知拡大等のPR効果を獲得した

掲載件数：104件（2017年度実績 64件）

広告換算額：¥36,524,377（2017年度実績 ¥26,168,726）

※詳細は掲載採録参照

- ・シンポジウム及びアワード2018表彰の告知と案内募集、スポーツ文化ツーリズムの気運醸成と実践地域・団体の今後のアワードへの参加意欲促進を目的に、情報拡散用のムービーを制作、スポーツ庁SNSやアワード受賞地域の自治体、関係団体などを通じて情報拡散、本事業の周知に活用した

- ・「スポーツ文化ツーリズムアワード2018」受賞団体イベントの紹介パネル（B1）を羽田空港国内線第一旅客ターミナル6Fスカイギャラリーにて展示

○モデル事例の報告書作成

※添付資料参照

○受賞団体事例の翻訳（2カ国語／英語・中国語）

※添付資料参照